

9 / 4 (月) の発表

【道庁プレスリリース】

報道発表資料の配付日時 9月4日(月)16時00分

発表項目 (行事名)	営農技術対策号外 水稻の適期収穫について	
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者
		発表場所
概要	<p>8月の台風7号の接近による強風などの影響で、日本海側の一部地域で水稻に倒伏がみられ、また、その後の大雨などにより、さらに倒伏が進み、品質への影響などが懸念されることから、営農技術対策(号外6)「水稻の適期収穫について」を別添のとおり作成し、各(総合)振興局等関係機関・団体に通知したのでお知らせします。</p> <p>北海道の営農技術対策(農政部生産振興局技術普及課ホームページ) http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/gjf/gijyutu/index.html</p>	
参考		
報道(取材)に当たってのお願い		
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク	(場所)
担当 (連絡先)	農政部生産振興局技術普及課(担当者:松井 首席普及指導員) TEL ダイヤルイン 011-206-6428 内線 27-803 TEL 公用スマホ 011-585-6101 内線 12643	

水稻の適期収穫について

令和5年(2023年)9月4日
北海道農政部

本年は登熟期間が高温で推移していることから、成熟期は早く到達することが見込まれており、既に収穫が始まっている地域もあります。また台風7号の影響やその後の降雨に伴って、各地で倒伏が確認されていますので、次の事項に注意して品質の確保に努めてください。

- ・ 成熟期が近づいたら、こまめに試し刈りした上、丁寧に玄米判定を実施して収穫適期を正確に判断する。
- ・ 刈り遅れによる品質低下(茶米、サビ米、胴割粒など)を招かないよう適期に収穫する。
- ・ 品質向上のため、倒伏が発生しているほ場、白未熟粒、胴割粒の混入が見込まれるほ場、いもち病被害が大きいほ場等は別収穫を行う。
- ・ 二段乾燥と丁寧な調製を行い、胴割粒の発生を防ぐ。

- 1 収穫は適期判定結果に基づいて、刈り遅れのないように計画的に作業を行う。
- 2 倒伏した部分は、「追い刈り」でコンバインの作業速度を落として丁寧に刈り取る。また、倒伏した部分の籾と通常の籾を一緒にすると、品質低下を招くおそれがあるため別収穫とする。同様にいもち病等の被害部分も別収穫し、品質の劣った米が混じらないようにする。
- 3 倒伏面積が大きいほ場では、重なり合った部分は乾きにくく、籾水分も高いため、収穫乾燥作業に時間を要する。また、倒伏部分は登熟も緩慢となり品質の低下が見込まれるため、その点を留意して作業を行う。
- 4 適正な乾燥・調製の推進
 - (1) 籾水分が多いほど、また外気温が高いほど、ヤケ米の発生が多くなるので、収穫した生籾は長時間放置せず速やかに乾燥を行う。
 - (2) 胴割粒の発生を防ぐために、毎時乾減率は0.5~0.8%を守り、急激な乾燥を避ける。
 - (3) 二段乾燥を実施し、水分ムラや過乾燥、胴割粒などの発生による品質低下を防ぐ。
 - (4) 二段乾燥は、一次乾燥で籾水分を18%程度に落として1日程度乾燥を休止し、十分に籾水分の均一化を図った後に、玄米水分が14.5~15%になるよう仕上げ乾燥をする。